

II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

2 社会

(1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問1	3	388	91.7	11	2.6	17	4.0	7	1.7	93.1
	問2	2	315	74.5	1	0.2	107	25.3	0	0.0	74.7
	問3	2	127	30.0	0	0.0	296	70.0	0	0.0	30.0
	問4	5	343	81.1	54	12.8	10	2.4	16	3.8	87.8
	問5	3	170	40.2	38	9.0	213	50.4	2	0.5	44.8
2	問1	3	266	62.9	0	0.0	145	34.3	12	2.8	62.9
	問2	2	262	61.9	0	0.0	160	37.8	1	0.2	61.9
	問3	5	247	58.4	97	22.9	28	6.6	51	12.1	70.9
	問4	2	259	61.2	0	0.0	163	38.5	1	0.2	61.2
	問5	3	299	70.7	20	4.7	102	24.1	2	0.5	73.0
3	問1	3	399	94.3	1	0.2	9	2.1	14	3.3	94.5
	問2	2	307	72.6	0	0.0	115	27.2	1	0.2	72.6
	問3	3	180	42.6	0	0.0	241	57.0	2	0.5	42.6
	問4	2	247	58.4	0	0.0	175	41.4	1	0.2	58.4
	問5	5	19	4.5	184	43.5	157	37.1	63	14.9	24.0
4	問1	3	155	36.6	0	0.0	267	63.1	1	0.2	36.6
	問2	3	52	12.3	126	29.8	235	55.6	10	2.4	28.8
	問3	4	121	28.6	175	41.4	107	25.3	20	4.7	49.1
	問4	2	94	22.2	1	0.2	328	77.5	0	0.0	22.5
	問5	3	161	38.1	3	0.7	191	45.2	68	16.1	38.5
5	問1	3	128	30.3	3	0.7	292	69.0	0	0.0	30.7
	問2	3	61	14.4	36	8.5	324	76.6	2	0.5	18.6
	問3(1)	4	186	44.0	64	15.1	120	28.4	53	12.5	52.8
	問3(2)	2	360	85.1	3	0.7	59	13.9	1	0.2	85.8
	問4	3	236	55.8	1	0.2	118	27.9	68	16.1	55.9
	問5	4	177	41.8	77	18.2	100	23.6	69	16.3	52.3
	問6	2	196	46.3	1	0.2	226	53.4	0	0.0	46.6
	問7	2	294	69.5	0	0.0	128	30.3	1	0.2	69.5
問8	2	96	22.7	140	33.1	123	29.1	64	15.1	39.4	
6	問1	2	404	95.5	0	0.0	14	3.3	5	1.2	95.5
	問2	3	188	44.4	0	0.0	233	55.1	2	0.5	44.4
	問3	3	186	44.0	0	0.0	235	55.6	2	0.5	44.0
	問4	2	245	57.9	0	0.0	174	41.1	4	0.9	57.9
	問5	5	109	25.8	156	36.9	78	18.4	80	18.9	45.1

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 問題の内容

1 世界地図に示した5か国について調べる学習の場面を想定した、地理的分野の問題である。

問1 三大洋のうち、アメリカ合衆国のある大陸が面している二つの海洋の名称を書く問題である。

問2 5か国の首都の位置について述べた文として正しいものを選ぶ問題である。

問3 東京からの距離と方位が正しくあらわされた地図を活用して、東京からみたアルゼンチンの首都の方位を選ぶ問題である。

問4 砂漠気候の気温と降水量を示したグラフと、砂漠気候の景観写真を読み取り、砂漠気候の特色を植物の生育にふれて記述する問題である。

問5 エジプト、モンゴル、オーストラリア、アメリカ合衆国、アルゼンチンの、2016年における1人あたりのGNI、輸出入総額とおもな輸出入品の総額に占める割合を示した表を読み取り、読み取れる内容を述べた文として正しいものをすべて選ぶ問題である。

2 日本のある地域の自然環境や産業について調べる学習の場面を想定した、地理的分野の問題である。

問1 地図に模式的に示された東北地方に冷害をもたらす風と、東北地方の夏の気象災害についてのまとめを読み、地図とまとめの中の空欄にあてはまる、冷害をもたらす風の名称を書く問題である。

問2 埼玉県、長野県、石川県の県庁所在地の気温と降水量を示したグラフを読み取り、各グラフと県庁所在地の組み合わせを選ぶ問題である。

問3 山梨県の一部を示した地形図を見て、川が山間部から平野や盆地に出たところに土砂がたまってつくられた地形の名称と、地形図から読み取れるこのような地形での農業におけるおもな土地利用について記述する問題である。

問4 岩手県、埼玉県、長野県、石川県の、2016年における農業産出額の割合を示したグラフを読み取り、グラフ中にあてはまる農産物の組み合わせを選ぶ問題である。

問5 山梨県の一部を示した2万5千分の1の地形図を読み取り、読み取れる内容を述べた文として下線部が正しいものをすべて選ぶ問題である。

3 近世までの日本と中国との関係などについて調べる学習の場面を想定した、歴史的分野の問題である。

問1 邪馬台国の女王の人物名を書く問題である。

問2 平安時代の文化について述べた文と、平安時代の代表的な文化財の組み合わせを選ぶ問題である。

問3 鎌倉時代と同時期の世界のできごとを述べた文として、その正誤の組み合わせが正しいものを選ぶ問題である。

問4 室町時代の社会や経済の様子を述べた文として正しいものを選ぶ問題である。

問5 江戸時代の幕府が大名を統制するために定めた法律の名称を書き、江戸時代における大名とほどのような武士のことか、石高にふれながら説明する問題である。

4 近現代の年表を基にした、歴史的分野の問題である。

問1 大政奉還から大日本帝国憲法の発布に至るまでのできごとについて述べた文を、年代の古い順に並べかえる問題である。

問2 辛亥革命についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる人物名を書き、中華民国の首都の都市名と地図中の位置の組み合わせを選ぶ問題である。

問3 普通選挙法の成立によって、衆議院議員の選挙権をどのような人がもつこととされたかを説明し、また、普通選挙法が成立したときの内閣総理大臣を選ぶ問題である。

問4 太平洋戦争の始まりからサンフランシスコ平和条約の締結までの政治や社会について述べた文として正しいものを選ぶ問題である。

問5 日中国交正常化についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる語を書く問題である。

5 テーマを設定して調べる学習の場面を想定した、公民的分野の問題である。

問1 衆議院の解散から内閣が発足するまでのできごとを示したカードを、できごとの順に並べかえる問題である。

問2 日本の裁判に関して述べた文として正しいものをすべて選ぶ問題である。

問3 (1) 政治参加と選挙について学ぶ授業における先生と生徒との会話文を読み、会話文の中の空欄にあてはまる比例代表制のしくみの説明を書く問題である。

(2) 「一票の格差」を説明するとき用いる資料を選ぶ問題である。

問4 独占禁止法についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる語を書く問題である。

問5 日本銀行の「銀行の銀行」とよばれる役割について説明する問題である。

問6 労働者の権利についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる語の組み合わせを選ぶ問題である。

問7 日本の社会保障について述べた文として、その正誤の組み合わせが正しいものを選ぶ問題である。

問8 環境問題についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる語を書く問題である。

- 6 世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に関連する事項について調べる学習の場面を想定した、地理的分野・歴史的分野・公民的分野についての総合的な問題である。
- 問1 キリスト教の伝来についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる人物名を書く問題である。
- 問2 スペインとポルトガルの世界進出についての地図を見て、バスコ・ダ・ガマの航路とポルトガルの植民地にあたるものの組み合わせを選ぶ問題である。
- 問3 ロシアやソ連に関するできごとについて述べた文を、年代の古い順に並べかえる問題である。
- 問4 日米修好通商条約によって開港された港がある道県の、2016年における人口、面積、海岸線の延長、農業産出額、工業出荷額を示した表を読み取り、長崎県にあたるものを選ぶ問題である。
- 問5 長崎県と福岡県の平成30年度一般会計当初予算（歳入）の内訳のグラフをみて、福岡県と比較した長崎県の歳入の特色について、地方交付税交付金とはどのようなものかについて説明する問題である。

(3) 所見・解説

- 1 世界地図に示した5か国について調べる学習の場面を想定し、世界の地域構成や地域的特色について理解しているかをみようとした。
- 問1 地図1をみると、アメリカ合衆国のある大陸が面している海洋は「太平洋」と「大西洋」である。
- 問2 位置の経度が西経で示される首都はDとEの2つであり、正答はウとなる。経線の基準となる本初子午線が、世界地図においてどの辺りを通っているかを理解しておきたい。
- 問3 地図1中のEの地点を東京からの距離と方位が正しくあらわされた地図2にあてはめて考察すると、Eの地点の方位はおよそ東であり、正答はイとなる。誤答の多くはウを選択したものであった。地図は目的に合わせて様々な種類があり、目的に合わせて地図を適切に活用できる技能を身に付けたい。
- 問4 気温と降水量を示したグラフから、砂漠気候は降水量が少ないことが読み取れる。また、砂漠気候の景観写真から、植物の生育を読み取ると、砂漠気候では植物がほとんど育たないことが分かる。正答に至らなかったものには、植物の生育についての記述が不十分であったものなどがみられた。
- 問5 表から読み取れる内容を述べた文として正しいものは、ア、オとなる。誤答はアを選択してないものが多かった。金の輸出額は、「総額×総額に占める割合(%)÷100」で求められ、アは正しいと判断できる。また、1人あたりのGNIが最も多い国はアメリカ合衆国であり、貿易赤字の国は、エジプトとアメリカ合衆国であるため、オは正しいと判断できる。日頃から統計資料に親しむとともに、数値については、実数と割合の違いを正しく読み取ることが求められる。
- 2 日本のある地域の自然環境や産業について調べる学習の場面を想定し、日本の諸地域の地域的特色、身近な地域の調査について理解しているかをみようとした。
- 問1 地図とまとめの文章を読み取ることにより、空欄Xにあてはまる語は「やませ」であるとわかる。
- 問2 日本の気候区分において、太平洋側の気候の特色は、冬に降水量が少なく、夏に降水量が多いことであり、中央高地の気候（内陸の気候）の特色は、年間をとおして気温が低く、降水量が少ないことであり、日本海側の気候の特色は、冬の降水量が多いことである。これらにより、正答はエとなる。
- 問3 川が山間部から平野や盆地に出たところに土砂がたまってつくられた、水はけがよいという特徴をもつ地形は、「扇状地」である。誤答は「三角州」が多かった。また、農業に関する土地利用については、地形図から「果樹園」の地図記号を読み取ることができる。
- 問4 正答はアとなる。埼玉県は、東京の周辺の近郊農業の地域であることから、野菜の生産が盛んである。長野県は、その気候の特色をいかして果樹栽培と高原野菜を栽培する農業が盛んである。石川県のある北陸の農業の特色は、稲作の割合が高いことである。そのため、Aには野菜、Bには米、Cには果実があてはまる。
- 問5 A地点の近くにある標高点の数値や、B地点の近くにある水準点の数値、また等高線から日川はB地点からA地点に向かって流れていると判断できるため、アは誤りである。縮尺が2万5千分の1の地形図であることから $7\text{cm} \times 25,000 = 175,000\text{cm} = 1,750\text{m}$ となるため、イは正しい。E地点からみて左下にあるF地点はおよそ南西の方向にあり、ウは正しい。E地点にみられる地図記号は図書館であり、エは正しい。H地点は、近くにある標高を表す数値と計曲線が50mごとであることか

ら標高 700m、I 地点は、近くにある三角点の値と計曲線が 50m ごとであることから、標高 800m となるため、オは誤っていると判断できる。したがって、正答はイ、ウ、エとなる。

3 近世までの日本と中国との関係などについて調べる学習の場面を想定し、世界の歴史を背景とした近世までの日本の歴史について理解しているかをみようとした。

問1 「親魏倭王」という称号を授けられた邪馬台国の女王は「卑弥呼」である。

問2 平安時代の文化について述べた文は a であり、平安時代の代表的な文化財は、資料 1 の「源氏物語絵巻」であるため、正答はアとなる。誤答の多くはエを選択したものであった。これは室町時代の文化について述べた文の b と室町時代の代表的な文化財の組み合わせである。各時代の文化の特色と、その時代の代表的な文化財について理解を深める必要がある。

問3 X はローマ帝国が東西に分裂したことについて述べた文であり、日本では古墳時代にあたる。Y はフビライに仕えたマルコ・ポーロについて述べた文であり、日本では鎌倉時代にあたる。Z は宗教改革について述べた文であり、日本では室町時代にあたる。よって、正答はウとなる。誤答の多くはエを選択したものであった。

問4 室町時代の社会や経済に関する問題であり、正答はイとなる。誤答の多くはウを選択したものであった。

問5 江戸時代の幕府が大名を統制するために定めた法律は「武家諸法度」である。また、江戸時代における大名とは、将軍から 1 万石以上の領地をあたえられた武士のことである。正答に至らなかったものには、石高の記述が不十分であったものが多くみられた。

4 近現代の日本と世界の歴史について理解しているかをみようとした。

問1 正答はア→ウ→イ→エとなる。選択肢の内容を読み取ることで、年号を暗記していなくても正答を導くことができる。アの五箇条の御誓文の発布は、新政府が政治の方針を内外に示したものである。ウの版籍奉還は、新政府が中央集権国家の建設をめざして行われた改革であり、アより後である。イの民撰議院設立建白書の提出は、自由民権運動の出発点であり、アとウより後である。国会を開設する前に憲法を制定するため、伊藤博文はヨーロッパへ調査に行き、各地で憲法について学び帰国後、エのように内閣制度ができると、伊藤博文は初代の内閣総理大臣に就任した。誤答の多くは、五箇条の御誓文の発布と版籍奉還が行われた順を理解していないものであった。

問2 三民主義を唱えて革命運動を進め、臨時大総統となった人物は「孫文」である。また、中華民国の首都は「南京」であり、地図中の南京の位置は c であるため、正答はウとなる。誤答の多くはエとオであった。歴史の学習においても、地図を活用し、地理的分野との関連を図る必要がある。

問3 普通選挙法の成立により、衆議院議員の選挙権をもつこととされた人は、満 25 歳以上の男子である。また普通選挙法が成立したときの内閣総理大臣は、イの加藤高明である。正答に至らなかったものには、アの原敬を選んだものや、選挙権をもつこととされた人を「満 25 歳以上の男女」としているものがみられた。

問4 太平洋戦争の始まりから、サンフランシスコ平和条約の締結までの日本の社会や経済の様子について述べた文はアである。誤答の多くはイやウを選択したものであった。イはサンフランシスコ平和条約より後、ウは太平洋戦争の始まりより前のできごとである。

問5 まとめの文章を読み取ることにより、空欄にあてはまる語は「日中共同声明」となる。

5 公民的分野の学習のまよめとして、興味のある分野からテーマを設定して調べる学習の場面を想定し、日本の政治や経済、国際社会について理解しているかをみようとした。

問1 正答はエ→イ→ア→ウとなる。エの「衆議院議員総選挙の投票」は、衆議院の解散後に行われる。

イの「特別会（特別国会）の召集」は衆議院議員総選挙の投票後に行われることから、エより後である。アの「内閣総理大臣の指名」は、特別会（特別国会）で行われることから、イより後である。内閣総理大臣が国務大臣を任命し、内閣を組織することから、アの後がウの「国務大臣の任命」となる。誤答には、「衆議院議員総選挙の投票」の後に「特別会（特別国会）の召集」が行われることや、「内閣総理大臣の指名」の後に「国務大臣の任命」が行われることを理解していないものがみられた。

問2 日本の裁判に関して正しく述べた文はアとオである。第一審の判決に納得できない場合、第二審の裁判所に行くのは「上告」ではなく「控訴」であり、さらに不服がある場合に行くのは「控訴」で

はなく「上告」であり、イは誤りである。裁判員裁判の対象となるのは、重大な犯罪についての刑事裁判であり、ウは誤りである。また、国が費用を負担して弁護人をつける制度は刑事裁判で採られている制度であり、エは誤りである。

- 問3 (1) 比例代表制とは、得票数に応じて各政党に議席を配分するしくみである。正答に至らなかったものには、各政党への配分についてふれていないものがみられた。
- (2) 「一票の格差」を説明するためには、選挙区ごとの議員一人あたりの有権者数を示す資料が最も適切であり、正答はエとなる。誤答の多くはイを選択しているものであった。
- 問4 まとめの文章を読み取ると、空欄Iにあてはまる語は「公正取引委員会」となる。
- 問5 「銀行の銀行」とよばれる役割は、一般の銀行に対して、資金の貸し出しや預金の受け入れを行うことなどである。
- 問6 まとめの文章を読み取ると、労働時間や休日などについて定められている法律について述べていることから、空欄Iにあてはまる語は「労働基準法」である。労働基準法においては、労働時間は週40時間以内、1日8時間以内と定められていることから、空欄IIにあてはまる語は「40時間」である。また、「仕事と家庭生活や地域生活を両立」とあることから、空欄IIIには「ワーク・ライフ・バランス」があてはまる。よって、正答はウとなる。誤答の多くはアを選択したものであった。
- 問7 正答はイとなる。介護保険制度は、20歳以上の希望する人ではなく、40歳以上の人が入会する制度であるため、Yは誤っていると判断できる。誤答の多くはアを選択したものであった。
- 問8 まとめの文章を読み取ると、正答に至ることができる。空欄Qにあてはまる語は「京都」であり、空欄Rにあてはまる語は「パリ」である。

6 世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に関連する事項について調べる学習の場面を想定し、地理的分野・歴史的分野・公民的分野を総合的に理解しているかをみようとした。

- 問1 キリスト教を伝えるために日本に来たイエズス会の宣教師は「ザビエル」である。
- 問2 地図において、バスコ・ダ・ガマの航路はC、ポルトガルの植民地にあたるものはbであるため、正答はカとなる。なお、コロンブスの航路はA、マゼランの艦隊の航路はBであり、スペインの植民地にあたるものはaである。誤答の多くはウを選択したものであった。
- 問3 正答はウ→エ→イ→アとなる。ウのロシア革命は第一次世界大戦中に起こったものである。エのソ連が日ソ中立条約を破って満州や朝鮮に侵攻してきたのは第二次世界大戦中であり、ウより後である。イの日本の国連加盟は冷戦の時期のものであり、エより後である。アのマルタ会談により冷戦が終結した。誤答の多くは、ウのロシア革命とエのソ連による満州や朝鮮への侵攻の順を理解していないものや、イの日本の国連加盟とアの冷戦終結の順を理解していないものであった。
- 問4 正答はエとなる。面積に比べて海岸線の延長が長いことから長崎県にあたるものはエであると判断できる。なお、アは神奈川県、イは兵庫県、ウは新潟県、オは北海道にあたるものである。
- 問5 グラフから福岡県と比較した長崎県の歳入の内訳の特色を読み取ると、地方税の割合が低く、財政格差をおさえるために国から配分される地方交付税交付金の割合が高いことがわかる。正答に至らなかったものには、長崎県の歳入の特色についての記述がないものや、地方交付税交付金についての記述が不十分であるものがみられた。